

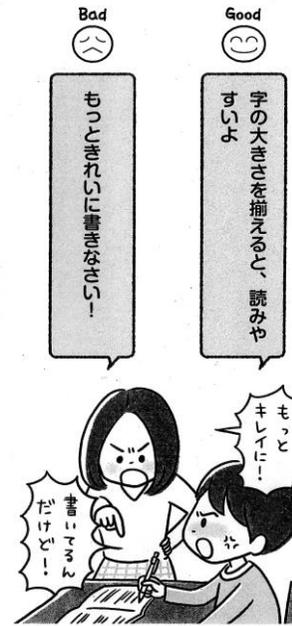
啓伸塾 便り

うづき
4月 (卯月)
April

基礎学力を重視する学習塾
啓伸塾
ただ今、新春の
新入塾生募集

勉強でいいねん子の子がきれい
きれいな字で、「読みやすさ」がある。丁寧な書きぶりが目立ちます。

子どもの成績を「伸ばす親」は「伸ばせない親」の習慣
桜せみナール塾長 安村知倫 著 あり



きれいな字を書かせるのは「朝一タビ」は難しい。「きれいに書かせる」といって何度言ってもなかなか直りません。

字のきれいさと成績には、実はそれほど相関関係はありませんが、成績に悪影響を及ぼすこともあります。

例えば、算数(数学)の筆算で書かれた「0」「1」「2」「3」「4」「5」「6」「7」「8」「9」を間違えて書いた場合は、それ「整った字は見ただ目で見ただけで、先生にしてお子さんの印象も悪くなる可能性があります。」

特に中学生の単元テストや定期テストで、きれいな字を書いている子の答案を見ると先生の採点が甘くなる傾向があります。極端に言いますが、間違っても正解になってしまつてしまうことがあります。最高で100点満点で、約10点も得をした子もいます。それくらい、きれいな字を書く子は、先生に好印象なのです。

お子様の字が汚いと、気になりませんか？

それでは、具体的な三つの解決方法をお教えします。

字が汚い子の特徴の「1」は、字の大きさがバラバラです。
漢字がひらがなより少し大きめに書いてあるとバランスがよく、文全体も整って見えます。

もしお子さんの字が汚いなら、出来るだけ早く直していきましょう。逆に、小さい漢字と大きいひらがなが混ざつてるとバランスが悪く、全体がごちゃごちゃになって見えます。

ワーク(学校・塾の教材)の正しい取り組み方

「テスト前に学校のワークを2回やった、3回やったけど、テストでは点数が取れなかった」という子がよくいます。テストで思うような点数が取れないのは、考えてワークを解いていないからです。そのような子は、問題を解くことよりワークの答えを書くことに集中して問題を解くことを忘れているのです。

ワークに取り組む本来の目的は、出来なかった問題を出来るようにすることです。ワークの問題をやり、出来なかった問題は答え合わせの際、解説を読んで、なぜそうなるのかをしっかりと考え、納得して覚えるのです。そして、覚えたかを確認するためにもう一度やってみる。ここで2回やったこととなります。2回、3回とやることにより全問正解に近づきます。

1回目に出てきた問題も最低3回は繰り返しましょう。その理由は、しっかりと覚えていなくて、いろいろ考えて正解にたどり着いた問題かもしれません。言い換えれば、それは偶然まぐれて正解した問題です。だから、しっかりと覚えている問題ではないのです。それで、3回は繰り返します。3回繰り返して3回とも正解なら、4回目は、その問題を除いてそのワークをやってください。そのようにして、4回目、5回目をやれば完璧です。

漢字・英単語・理科・社会の覚えて済む問題は、それほど時間はかかりません。しかし、数学の応用問題、理科の計算が必要な問題は、解説を読んだり誰かに教えてもらっても、納得できないことがあります。その時は、やり方を覚えてしまいましょう。時間がたつと納得できることがよくあります。

このような勉強法は、テスト前にやる勉強法ではありません。普段から毎日少しずつ取り組む習慣が必要なのです。また、毎日自宅学習が出来ていない子は、少しの時間(自分が集中出来る時間、たとえ10分でもいいです。)から始めてください。このコツ毎日取り組むことが大切です。理想の自宅学習の時間は、小学生なら、学年×10分。中学生なら学年×1時間といわれます。特に中学3年生は、入試のための勉強が必要です。覚えることが多い理科、社会、そして英語は、学校のワークなどで1年生の単元から、毎日少しずつ自主勉として取り組んでください。

そうしないと後で後悔することになります。

参考文献 中学生 中間・期末テストの勉強法 実務教育出版

4月予定

4月7日(月) 新年度授業開始・29日(火)は授業を行います。
5月5日(月)・6日(火) 祝塾の授業はお休みします。

例年、連休明けに、中1・2は「課題テスト」中3は「実力テスト」があります。中3生は、3月に行いました塾内実力テストの問題を出るようにしておきましょう。通常授業中にテスト対策も行います。各小・中学校の年間計画表が出されましたら、テストの日程を確認させていただきます。

6月に、漢字検定を行います。改めて、ご案内をお渡しします。

そんなときは、漢字はひらがなより少し大きめというルールを意識してください。

さらに、漢字同士の大きさを揃えようというルールを意識してください。美しい書く必要はないので、文字の大きさを同じにしつつ、「と」を付けてあげましょう。

文字の大きさに統一感が出るので、文章全体の見栄えも整って読みやすくなります。

次に、急ぐと書くスピードが速いから文字が雑になる子もいます。

そのような子は座る姿勢を直すようにアトハイムをしてください。身体が曲がると整った字が書けません。背筋を伸ばして、右利きなら左手の手のひらでペンを握ってしっかりと書くように心がけてください。習字のときのよう姿勢です。

姿勢が整ったなら、「ト」・「メ」・「ハ」・「フ」をしっかりと書いて「と」を書かれます。自然と書ハススピードがめつるようになって、丁寧な文字になることが期待されます。

最後は、文字を書くのを面倒な子がいます。「このあえす自分が読めばいい」と考えているタイプです。

読めばいいと考えている子は、字が少し汚くても恥ずかしいことだと思いません。そんな子には、「おはあちゃんに手紙を書くつもりで」「と声をかけてみてください。

多くの小・中学生は、自分のおじいちゃんやおばあちゃんが好きです。大好きな人に自分の字が読まれることを意識させれば、一つひとつの文字に心を込めて、できるだけきれいな字を書くことのできるようになります。

月に一度、子どもの大好きな人と文通をさせるのも、丁寧な字を習慣化する一つの方法です。おじいちゃんやおばあちゃんに手紙を書くための手紙は宝物になります。

このように、お子さんが文字を書く様子を見ながら声をかけてみてください。